

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	191400183		
法人名	医療法人 鴻仁会		
事業所名	グループホームまつかわ		
所在地	函館市松川町41番17号		
自己評価作成日	平成29年2月2日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL saku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=0191400183-00&PrefCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域との繋がりをより深めるため、町内の清掃活動や夏のお祭り、餅つき大会などに参加し交流を深めています。
 ・各グループホームの委員会が集まり、それぞれの施設の情報を交換し、入居者様が安心・安全に暮らせるよう、業務内容・支援内容の向上に努めています。
 ・ホームでは、自分の家と同じように素足で過ごしていただいております、入居者様が違和感を感じることなく、不安や戸惑いの少ない生活を送ることのできるよう支援しています。また、ホールより居室が見渡せる環境になっており、居室より出られると職員や他利用者様の顔がすぐに見られるため、安心して生活出来るようになっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームまつかわは函館市でも古くからの住宅地に開設して7年目を迎える事業所となっています。運営母体で協力医療機関でもある深瀬医院が目の前にあり、緊急時の対応も迅速に行うことが出来、利用者は安心して生活を送っています。散歩やドライブなど外出する機会を多く確保して五感刺激をし、体操などで適度に体を動かすことで昼夜逆転を防ぐ取り組みをしています。管理者は綺麗にすることを大切にしており、希望する利用者には出張美容院でパーマをかけ、カラーリングをしてもらえよう連携を取り、毎日お化粧する方には習慣が継続できるように配慮し、穏やかで自分らしく暮らせるように支援しています。法人内の3つのグループホーム合同で年間勉強計画を作成して定期的に勉強会を開催し、レベルアップ・スキルアップに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本指針、ホームの理念の他、毎年目標を立て職員一同共有しケアの実践に取り組んでいる。理念についての勉強会を行い確認し合っている。	事業所独自の理念を作り、管理者はミーティングや申し送り時に、全職員で話し合い意識付けし、年間ケア目標を定めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事やボランティアへ積極的に参加しており、地域の方と顔馴染みの関係になることで、交流を深めている。	町内のお祭りや花キューピット事業などに職員と一緒に参加し、事業所の敬老会や年越会を兼ねた餅つき会にはボランティアの方々が訪れ、積極的に交流しています。単位取得を目的とした高校生の実習を受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人自体が地域に対して開かれており、色々な形で地域貢献を行い、運営推進会議など地域の方が参加することができる場を設け、日々の実践や研修で得た事を説明し理解していただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、ご家族様、包括、行政、町内会様、法人関係の様々な職種の方が集まり情報交換を行っている。また、意見や要望を真摯に受け止めサービスの向上を目指している。	包括支援センター・利用者・家族・町内会・理事・本部代表が出席して2ヵ月毎に開催して、行事・インシデント・アクシデントなどの報告・本部代表の講話があり活発な会議となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催の連絡などを行い参加を促しており、欠席の際は、会議資料等を郵送し協力関係を築くよう取り組んでいる。また、日頃より助言を頂いたり相談したりとすることでサービスの質の向上に努めている。	市の担当者とは制度や書類などで分からない事を相談をし、運営推進会議議事録を送付して協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修や講習会へ参加し勉強している。身体拘束委員会を月一回行い、伝達講習やスタッフミーティングでも話を行い、身体拘束防止に努めている。	身体拘束防止マニュアルを活用して拘束がないか発見に努め、毎月系列のグループホーム3カ所が合同で勉強会を開催し、外部研修に参加した職員は報告をして全職員で共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修や講習会へ参加し積極的に勉強している。虐待防止委員会を月一回行い、伝達講習やスタッフミーティングでも話を行い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修、講習に参加している。今後も積極的に参加し、ミーティング等で職員全員が周知理解できる様に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を掛けて丁寧な説明を心掛け、しっかり説明を行い、利用者様、ご家族様に理解と納得を得て契約している。また、疑問点などある際は、随時相談を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置、アンケートの実施、来訪時や電話の際に要望などが無いか伺いサービス向上に取り組んでいる。運営推進会議などで報告し、意見、助言を頂き改善に取り組んでいる。	家族アンケートを行ったり、面会時には些細な事でも気軽に話せる雰囲気づくりをし、遠方の方には手紙や電話の際に要望を伺って運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度、スタッフ会議を行い、代表者も参加され職員の意見、提案など聞く機会を設けている。また4か月に1度、代表者、職員が集まる懇話会を行い、自由に話せる場を設け、業務に反映させている。	業務改善委員は日常的に意見を聞き、1日の業務の流れが効率的に行われるように、入浴や掃除の時間を調整して見守りの時間を確保し事故防止に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会や利用者様の担当をそれぞれ持ち、責任を持ち業務に取り組んでもらっている。また代表者、管理者、職員などの話し合いの場も設け、職場環境の改善に取り組んでいる。資格の助成金の制度や子育て支援の制度などもあり、職員のやる気を上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度、法人での勉強会に参加している。また、外部研修にも参加してもらい、研修内容を伝達講習して頂き、知識、介護技術の向上を努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、外部での勉強会、研修への参加や行事や委員会活動を通じ、情報交換や交流を行いサービスの向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の訪問、面談、入居時の契約の際に、入居者様が不安に思っている事、感じている事を把握、共有し、安心してもらえるような関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にご家族様と面談を行い、不安に思っていることや疑問に思っていることを把握し、具体的な支援について説明を行い、ご家族様に安心して頂けるよう信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様が何を希望しているのか理解した上で、希望に沿えるように職員で話し合い、入居者様がより良い日常生活を過ごせるよう、またご家族にも安心していただけるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の人格、尊厳を尊重し、人生の先輩として尊敬し学んでいく姿勢を忘れないように努めている。また、入居者様がどのような支援を必要としているのか話を傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはホールや居室など希望された場所でいつでも気軽に立ち寄れる環境作りや、遠方のご家族様には電話連絡を取り近況報告など行い、関係作りに取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様とお話をし、馴染みの人など気軽に立ち寄れるような環境作りに取り組んでいる。ドライブに行く際など、利用者様に事前に行きたい所など聞いて、希望に応えられるよう計画を立てている。	家族は面会時に利用者の友人を伴って来訪したり、お盆や命日には利用者と家族と一緒に外出・外食をしています。馴染みの出張理・美容院を利用し、カラーリングやパーマをかけておしゃれをしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席は入居者様同士の関係に配慮した配置になっている。レクリエーションや家事、手伝いなどできるだけ多くの利用者様が参加し、楽しめるような工夫を行い支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受けることができるようこれまでの関係性を大切にしている。また、退居させていてもグループ内の他の施設で利用されている場合が多いので、随時相談出来る体制になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室にはご本人様が使用していたものや馴染みの物などを持ってきて頂き、置くようにしている。また、ご家族様やご本人様との会話などを通じ、意向の把握に努め、出来る限り希望にそえるよう支援している。	日々の関わりの中で本人が判断しやすいような声掛けをし、言葉や表情・動作・生活歴も参考に把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、友人、介護支援専門員よりサービス利用の経過等について情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や情報などを参考にご本人様に合った過ごし方を考えている。また、ラジオ体操やレクリエーション等の参加を呼びかけ、身体機能の現状維持、向上などできるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は面会時や電話にて、ご家族様、ご本人様とよく話し、意見やアイデアを聞いている。また、モニタリングを行い介護計画の必要性や継続性について検討し、必要時各専門職を含めたカンファレンスを行いケアプラン作成に取り組んでいる。	利用者担当職員がモニタリングをし、申し送りで都度話し合いカンファレンスで意見交換をして、医師の所見や家族の要望を取り入れ、定期的に現状に即した介護計画を作成しています。計画の実施状況は日々記録して目標達成度を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日記録し、情報を共有しケアの見直しを行っている。また面会や電話にて、日々の様子をご家族様にお伝えしている。職員一人一人が注意しながらご本人様の状態を観察し、必要時はケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に合わせ、随時相談や支援を行っている。それぞれの利用者様に合わせた生活が出来るよう、職員全員で柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事やボランティア活動に参加している。また、施設の行事の際はボランティア団体を呼んだりして色々な芸を観てもらっている。避難訓練は消防署の立会いの下、実施・指導を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より、ご本人様やご家族様に希望を伺い、ご家族様と協力しながらかかりつけ医の受診ができるように支援している。また同じグループに医院があり、ほとんどの利用者様が利用され安心して生活を送る事が出来ている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっています。協力医の訪問診療と看護師による健康管理が定期的に行われ、病気や風邪の時は随時往診しています。他の医療機関を受診する際は職員が医師の意見書を持参して行し、受診結果は都度家族に報告しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師による健康管理指導や、医師による居宅療養管理指導を受けて頂き、相談や指示を頂いている。また、24時間365日協力医療機関と連絡が取れる体制が整っており、入居者様には安心して暮らして頂けるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は協力医療機関との連携を密にし、早期に安心して退院できる様に入院先関係者との情報交換・協力体制が取れるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、入居前からご家族様やご本人様と話し合いを行い、入居者様の状態を見ながら法人内外との連携をしっかりと図り支援に取り組んでいる。	利用前に重度化や終末期の対応について説明をし同意を得、契約時には延命に関する意向も確認しています。管理者と全職員はミーティングで終末期支援について話し合い意識統一を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故に備えマニュアルを用意し、全職員が日頃より意識し、実践できるようにホーム内で勉強会を行っている。また急変時は、協力医療機関が近くにあり、すぐに対応できる体制をとっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて消防立合いの下、避難訓練を行い、昼夜を問わず、入居者様が安全に避難できるよう取り組んでいる。また、1階の小規模多機能施設やグループ内での協力体制が出来ている。	年2回町内会の方も参加して消防署と設備会社立ち会い、1階の小規模多機能事業所と合同で昼・夜の火災を想定した通報・消火・避難・応援要請訓練を実施して、終了後は反省会を行い消防から講評をいただいています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の気持ちを尊重し、自尊心や誇りを傷つけない様に全職員で言葉使いや対応に配慮している。	年度初めに管理者と全職員で接遇の勉強会を行い、誇りを傷つけないプライバシーを損ねない対応の徹底理解を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、本人の意思や希望を大事にし、その人らしく過ごす事が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースを大切に、ご本人様に合った生活が出来るよう支援している。また、レクリエーションやラジオ体操なども行い、できるだけ充実した日常生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はご本人様やご家族様の意見を聞き、できるだけご本人様に選んでもらい着て頂いている。また定期的に訪問理美容を利用し、本人の好みに合った髪形にしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はグループの管理栄養士が作成している。食事は配食サービスとなっており、盛り付け、米とぎ、味噌汁作りは職員と一緒にやっている。月に一度、食のイベントがあり、その際は料理を一緒にしている。また職員で調理師もおり、法人の給食会議に出席して情報を共有している。	給食委員会が希望を伺い献立に取り入れ、月1回夕食に季節の料理を利用者と職員が協力して作っています。外食も取り入れ事前にメニューの中から食べたいものを選んだり、ミキサー食にも対応して頂けるので、皆で楽しんでいきます。誕生会の食事はリクエストが多いにぎりずしが定番になっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を考えており、バランスが取れた食事になっている。入居者様個々の食事量、水分量を都度記録し、ご本人様の状態にあわせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは出来る限りご本人様にしてもらい、出来ない部分については支援を行っている。義歯は洗浄剤を使用し清潔を保っている。また、法人に歯科もある為、必要時には相談、診察、講義をしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない利用者様への声掛け、トイレ誘導、できない部分の介助を行っている。また、排泄パターンを把握する為24時間の排泄表を使用し、できるだけトイレでの排泄ができるよう自立に向け支援している。	経済的な事情や精神的なリスクを考慮して、生活リズムやパターンを把握して声掛けや誘導することで、退院後2日程で布パンツにパットを使用してトイレでの排泄を可能にし、自立に成功しています。夜間はポータブルトイレで対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は管理栄養士にてバランスの取れた食事が出来ている。記録を活用して水分量の把握や排便の確認をしている。また、個々に合わせ身体を毎日動かしている。必要時、看護師、主治医への相談も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2ユニットでお風呂が一つしかないので相談しながら使用している。入居者様の状態やその日その時の気分などに合わせ、ご本人様と相談しながら入浴の支援を行っている。	入浴は曜日と回数を決めています。利用者の状況や拒否する方には時間や曜日を変えて臨機応変に対応し、職員と会話をしたり、湯船におもちゃを浮かべて入浴を楽しんでいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な休息を取りながら、一人一人の体調や状況に合わせた活動をしてもらうことにより、夜もぐっすり眠っていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに保管し、職員がいつでも確認できる様になっている。服薬はマニュアルに沿って行っている。薬は薬局より、日付、毎食後に分かれた箱に入り届けられ、服薬間違えないよう工夫されている。また、服薬チェック表を作成し、誤薬のないよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴などについて、ご家族様や友人の方より聞き取りを行い、入居後も出来る限りそれまで続けていたことを継続できるよう支援をしている。また、行事やレクリエーションなども取り入れ、外に出る機会を増やしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期など、天気が良い日は散歩に行ったり、町内会の活動へ参加、その他行事レクリエーションなどで外へ出る機会を増やしている。	自律神経と心の安定を図る為に日常の散歩と外気浴を大切に、6月から9月まではお祭りに参加する機会も多く確保し、年間計画で季節に合わせた外出も積極的に行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金での管理はしておらず、立て替え金にし使った分のみご家族様に請求している。また、ご家族様の同意を得て、ネットスーパーを活用し、利用者様と一緒に商品を選んで購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し、ご本人様が電話を希望された際には、時間など考慮し電話をかけられるよう対応している。手紙が来た際は、利用者様へ渡し、読めないときは職員が読んで伝えるという支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計を見て気温や湿度を調整している。季節感を大切にするため、入居者様と一緒に飾りを作りを行い季節感を楽しめるようにしている。照明や音量にも気をつけ、ストレスがかからないような空間作りを行っている。	居間の飾りつけは利用者と職員が一緒に作ったり考えて行い、生活感や季節感を大切にしたい暮らしの場にし、温度や湿度も適正に管理されて心地良く過ごせるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが広くゆったりとくつろぐことができるように、椅子やソファなどを配置し、気の合った入居者様同士がゆっくりお話しをされたり、個々でのんびりできるような環境作りを行い様々な工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご本人様やご家族様に実際に居室を見ていただき、ご本人様の使い慣れた家具や馴染みのある物を持参して頂き、できるだけ以前のような雰囲気でもらしていただけるよう支援している。	自宅との環境のギャップを感じさせないように馴染みの家具や思い出の品々を持ち込み、利用者が居心地よく暮らせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室など手すりがあり、バリアフリーになっている。台所はオープンキッチンでカウンターがあり、その方の能力に応じてお手伝いができ、利用者様一人一人に合った自立支援に取り組んでいる。		